

# 第2回青田廻り資料

平成29年7月  
富山農林振興センター  
なのはな農業協同組合

～「H29JAなのはな米品質向上運動」実施中～  
産地として選ばれる“なのはな米”1等米比率3年連続90%以上を目指して

今年のコシヒカリの幼穂形成期(幼穂長が2mmになる頃)は、7月12日頃と推測されます(5月13日田植えの場合)。

幼穂長や草丈、葉色など稲体の状況を的確に把握し、適切な穂肥施用や水管理により、米品質低下(白未熟粒の発生)を防ぎましょう。

## コシヒカリの生育状況

草丈：平年より短い 茎数：平年より多い 葉色：平年並み

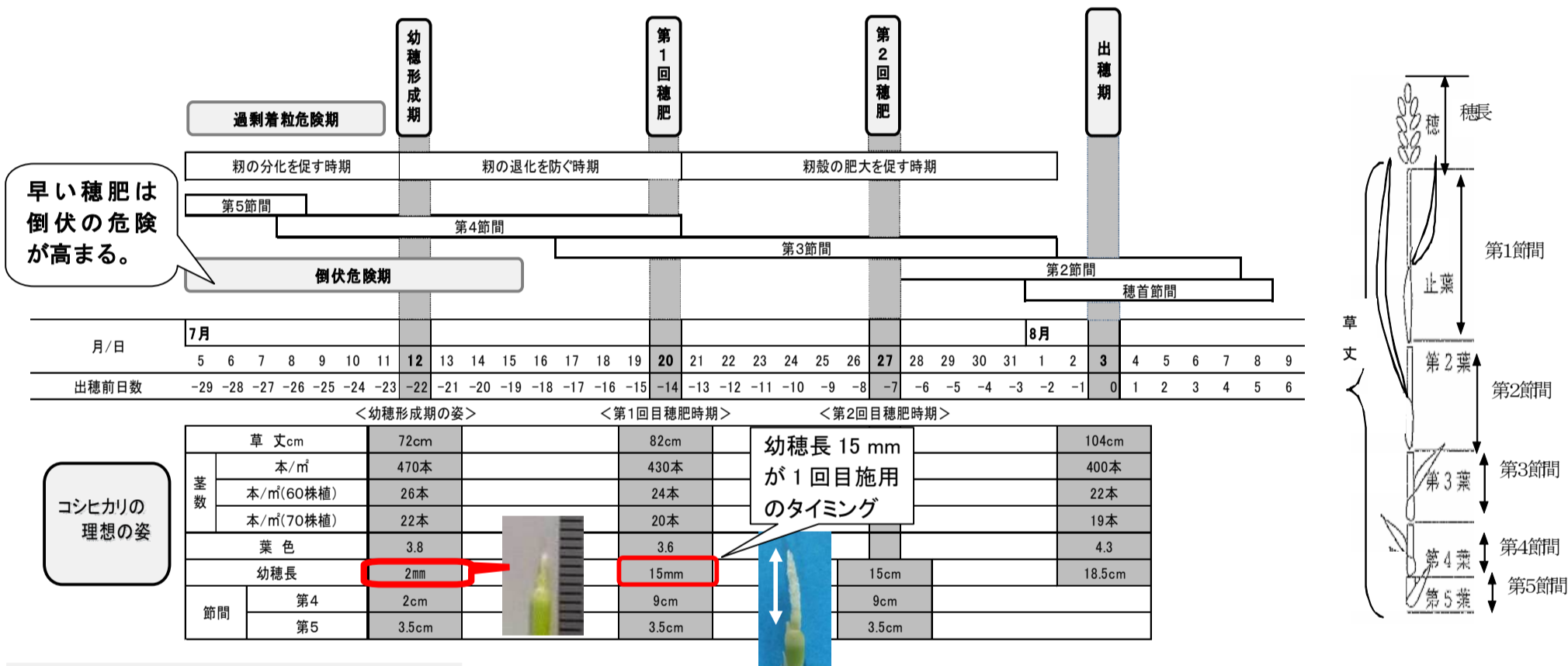
### ○コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内コシヒカリ生育基礎ほ(9カ所) 7月3日調査平均

|     | 田植日   | 草丈     | 株当たり茎数  | m <sup>2</sup> 当たり茎数 | 葉齢   | 葉色  | 幼穂形成期   |
|-----|-------|--------|---------|----------------------|------|-----|---------|
| H29 | 5月13日 | 54.3cm | 28.4/株  | 516本/m <sup>2</sup>  | 11.4 | 4.2 | (7月12日) |
| H28 | 5月11日 | 64.6cm | 26.2本/株 | 479本/m <sup>2</sup>  | 11.7 | 3.9 | 7月11日   |
| 平年  | 5月11日 | 62.5cm | 25.4本/株 | 475本/m <sup>2</sup>  | 11.5 | 4.1 | 7月11日   |

※平年 平成19年～28年の平均値

### ○コシヒカリの幼穂形成期頃の稲姿



## 1 コシヒカリの穂肥

### ① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

肥効調節型基肥肥料を施用したほ場でも、**出穂7日前**(7月末頃に)**に必ず葉色を確認**しましょう。  
このときに**葉色が3.8(砂壤土は4.0)以下**の場合は、**出穂7日前までに「追肥化成3号」を7kg/10a**施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

登熟期間中の活力維持!

### ② 分施栽培の場合

★生育量別穂肥の目安(肥料:追肥化成3号)

|      | 幼穂長15mmの生育状態 |       |             | 1回目穂肥  |          | 2回目穂肥        |                  | 備考                    |
|------|--------------|-------|-------------|--------|----------|--------------|------------------|-----------------------|
|      | 草丈           | 葉色    | 稲の姿         | 施用時期   | 施用量(10a) | 施用時期         | 施用量(10a)         |                       |
| 目標   | 82cm以下       | 3.6   | 葉がピンと立つ     | 7月20日頃 | 10kg     |              | 10～13kg(砂壤土13kg) |                       |
| やや過剰 | 82～87cm      | 3.8程度 | 葉がやや垂れ気味    | 7月23日頃 | 7kg以内    | 1回目穂肥の7日後    | 10kg             | 1回目穂肥を3日程度遅らせ、穂肥量も減らす |
| 過剰   | 87cm以上       | 4.0以上 | 葉がメラメラ施用しない | 施用しない  |          | 出穂7日前(7/27頃) | 7～10kg           |                       |

※最終の穂肥は出穂3日前までに終わらしましょう。

## 2 てんこもりの穂肥施用

### ① 基肥一発肥料を施用している場合

基肥一発肥料を施用したほ場でも、**出穂7～10日前**（7月末～8月初頃）に**必ず葉色を確認**し、このときの葉色が4.2以下の場合は、「追肥化成3号」を10kg/10a施用しましょう。

### ② 分施栽培の場合

5月9日頃の田植えで、幼穂形成期が7月17日頃と予想されます。

**1回目穂肥は、幼穂長1～2mm**頃が施用の適期となりますので、遅れないようにしましょう。

○穂肥施用の目安（肥料：「追肥化成3号」）

| 穂肥1回目施用時の生育状態 |         |         | 1回目穂肥  |          | 2回目穂肥    |          |
|---------------|---------|---------|--------|----------|----------|----------|
| 幼穂長           | 茎数（株当り） | 葉色      | 施用時期   | 施用量      | 施用時期     | 施用量      |
| 1～2mm         | 21～25本  | 4.0～4.2 | 7月17日頃 | 10kg/10a | 1回目の10日後 | 12kg/10a |

## 3 今後の水管理

《幼穂形成期から出穂期まで》  
～飽水管理で『うわ根』を活性化！～

幼穂形成期以降は、水不足にならないよう注意しましょう。

《出穂期以降》

～稲体の活力を維持し、登熟を向上！～

出穂期から20日間は**湛水状態**（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



## 4 病害虫防除

斑点米カメムシ類多発注意報  
発令中！

近年、**紋枯病**が増加しており、発生程度が大きくなると倒伏し、乳白粒や死米が多発するなど、品質低下につながります。

本年も、**斑点米カメムシ類**の発生が多くなっています。また、水田内の雑草の発生も多いことから、水田内にカメムシを呼び込みやすくなっています。**基本防除を徹底**しましょう！！

○防除時期の目安（7月4日現在の見込みです）

|    | 防除時期<br>（主な対象病害虫）  | 薬剤名              | 散布量       | てんたかく<br>（7/23出穂） | コシヒカリ<br>（8/3出穂） | てんこもり<br>（8/9出穂） |
|----|--------------------|------------------|-----------|-------------------|------------------|------------------|
| 粉剤 | 出穂直前<br>（いもち病・紋枯病） | ブラシンバリダ粉剤DL      | 3～4kg/10a | 7/9～13            | 7/23～25          | 8/1～3            |
|    | 穂揃期<br>（いもち病・カメムシ） | ビームキラップジョーカー粉剤DL | 3～4kg/10a | 7/27～29           | 8/7～9            | 8/13～15          |
|    | 傾穂期<br>（カメムシ）      | トレボンスター粉剤DL      | 3～4kg/10a | 8/3～5             | （随時）<br>8/14～16  | （随時）<br>8/20～22  |
| 粒剤 | 出穂10日前頃            | フジワンラップ粒剤        | 4kg/10a   | 7/13頃             | 7/24頃            | 7/30頃            |

《留意事項》

- ・出穂直前防除の目安は、早生：出穂10～14日前、中生：出穂10日前、晩生：出穂7日前です。
- ・防除の実施にあたっては、必ずほ場の生育状況を確認しましょう。
- ・防除の際は、農薬使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

### ○粒剤（フジワンラップ粒剤）を効かせるコツ

- ・出穂10日前頃に水深5cm程度の状態で散布し、5日間湛水を保ちます。
- ・稲が田水に溶けた薬剤を根から吸収するため、湛水が必要です。
- ・薬剤の大半は、散布後3日程度で吸収されます、**少なくとも3日間は浅い湛水**を守りましょう。なお、田面が露出した場合は静かに必要な分だけ入水（深水は濃度が薄まり逆効果）しましょう。